

●with コロナ における社会科の授業

社会研究通信第2回目では「withコロナの状況において、社会科の授業はどうしたらいいの?」という先生方の悩みについて、「中学社会研究ノート」の著者でもある榎原範久先生にうかがいました。



上越教育大学教職大学院

さかき ばら のり ひさ

准教授 榎原 範久 先生

元小学校教員・中学校社会科教員、日本人学校教員を経て、現職。博士（学校教育学）。社会科教育、ICT活用、アクティブ・ラーニングを専門とし、研究している。これらの内容に関して論文執筆、学会発表を重ね、全国の研究会や校内研修で講演し、これからの教育のあり方を提案している。

Q.1 新型コロナウイルスによって、私たちを取り巻く社会はどのように変化していますか?

A 新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの生活の全てに大きな変化を与えました。これまで当たり前とされてきた生活スタイルや価値観が変化しました。人の移動が極端に減少し、オンラインで代替できるものの多くは置き換えられてきました。子どもたちの生活の場であった学校も変化を余儀なくされ、文部科学省は「新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならない」という認識に立ちつつ、子供たちの健やかな学びを保障することとの両立を図っていくことが重要」と述べています。その視点に立ち、新しい時代を見据えて、子どもたちの学びの実現のために、学校も教員も変化に対応することが重要です。

Q.2 一学期の休校措置は、学校や子どもたちにどのような影響を与えているのでしょうか?

A 学校は休校措置によって、教育課程や年間スケジュールの変更を余儀なくされました。子どもたちは、学校という居場所を突然なくし、ステイホームを強いられ、精神的なストレスを抱えたのではないのでしょうか。また、先生たちにとっても大変な期間だったと思います。家庭との電話連絡を頻繁に行い、家庭学習を届け、子どもとの繋がりをなんとか断ち切らないように奔走する姿を見ました。しかしながら、多くの先生は子どもに充実した学びを保障できたと実感されていないのではないのでしょうか。

Q.4 「授業時数が足りず困っている。」と社会科の先生から聞きました。どうしたらよいのでしょうか?

A 従来通り教科書の内容を全てやろうとすると時間は不足するでしょう。社会科は知識理解の内容項目も多く、特にその問題が顕在化します。学習指導要領を見直し、指導すべき優先順位を明確にして、授業内容を再検討する必要があります。また、授業時数が不足

Q.3 夏休みが明け、withコロナの学校はどうあればよいのでしょうか?

A 私はまず「子どもの心のケア」が重要だと考えています。一学期の休校措置の影響で、多くの学校は夏休みを短縮しました。大人たちと同様に、子どもたちも様々な場面で自粛を呼びかけられ、遠方のおじいちゃんやおばあちゃんの元への帰省をやめたり、家族旅行をやめたりと、心身ともにリフレッシュする夏休みとはならなかったのではないのでしょうか。このような状況で始まった二学期です。まずは子どもたちが学校に行きたい、楽しい、と思えるようにしてあげたいです。安心できる場を作り、信頼できる他者の存在を意識できるようにし、心のケアをしてあげることが重要です。「学力の保障」はその次の課題だと思います。

しているからと言って授業内容を家庭学習に回すことは問題です。先生たちが目指すべきなのは、内容項目をやったという既成事実を作ることではなく、しっかりと子どもたちに学習内容を定着させることです。

Q.5 「新しい生活様式」で、新学習指導要領を見据えた授業はどのようにすればよいのでしょうか?

A これには多くの先生が苦慮されていることと思います。「新しい生活様式」が提示され、学校教育もその範疇で行われることになりました。一方で、感染症対策を講じるため、授業中はおしゃべり禁止、授業は個人でできるドリル学習中心、また教師の一斉指導を静かに聞く、ひたすら密を避けるといった方針も一部では見られるようです。しかし、そのような方針で、学校に登校して学習する意味があるのでしょうか。学校教育は協働的な学び合いの中で行われる特質を持つということを考慮しなければなりません。また、中学校では2021年度から新学習指導要領が全面実施されます。今回の学習指導要領の改訂ポイントの一つは、アクティブ・ラーニングの視点に立った主体的・対話的で深い学

びが求められている点です。対話的な学びは「新しい生活様式」の中では実現しにくいと考えられがちです。しかし、やり方はあります。お互いにマスクをして、2m



▲コロナ禍での授業の様子

(最低1m)の距離を空け、真正面を避けるなどすれば感染リスクを下げることができます。また、ICTを用いてお互いの意見を共有して相互コメントを入力したり、書籍を用いて先哲の考えに触れたりすることも対話的な学びの一つです。「感染対策を徹底しながら、主体的・対話的で深い学びを諦めない」これが新しい生活様式の中の新しい学習指導要領を実現する重要な考え方です。

Q.6 学力を保障するための社会科授業は、どのようにすればよいのでしょうか?

A 社会科の「学力」を3つの柱に分けて考えます。まず「知識・技能」については、社会科は知識理解項目が多いので、反転学習の考え方を応用しながら学校で知識・技能を習得する時間を少なくしていきたいです。そのために教科書準拠教材がおすすめです。教科書が一冊あれば、自分で解答できるものが望ましいです。「思考力・判断力・表現力」については、やはり授業の存在は大きいでしょう。学級の中で協働的な学びを展開することで、対話を通して自分と他者の考えの違いに気づき、価値判断をして、社会科の見方・考え方について学び、思考力を高めていきます。「学びに向かう力・人間性」については、withコロナの状況では、大きなポイントとなります。第2波、第3波に備えて、生徒に自ら学ぶ力とその習慣づけをさせることが重要です。

Q.8 withコロナにおいて、社会科の授業をよりよくするための、「中学社会研究ノート」の活用方法はありませんか?

A 学力の中で比較的身につけやすい「知識」に関して、自主学習の時間で行えるようになることが望ましいです。その点で教科書完全準拠である「中学社会研究ノート」は非常に優れています。社会科が苦手な生徒であっても、教科書を見ながらその内容に沿って解答できるので、自主学習には最適な教材です。左側のページで基礎的事項をおさえ、右側のノートページで

Q.7 withコロナの中、ICTはどのような役割を担っていくのでしょうか?

A 今回の休校期間では、オンライン授業を導入している学校がニュースになっていました。しかし、文部科学省の調査によると、休校期間中にオンライン授業を実現していた中学校はわずか10%程度でした。新型コロナウイルスの拡大前から、国際的に見て日本の学校のICT環境整備は大きく遅れていることが指摘されていました。今回、それが欠点として露呈したのです。中国やアメリカの学校では、授業はオンラインで実施され、学校との情報伝達はメールで行われ、子どもたちの学習の遅れは最小限に止めることができたと言われています。今回の新型コロナウイルスにかかわらず、災害や新たな感染症の脅威に備え、ICTの環境整備は喫緊の課題です。



▲秀学社発行「中学社会研究ノート」

協働的な学習を取り入れながら問題解決に取り組む学習を行うなどの手段が考えられます。withコロナの状況では、授業で行う内容の優先順位を明確にして、授業内容を検討します。そして、感染症対策を適切に行いながら、主体的・対話的で深い学びを実現することが期待されます。



秀学社ウェブサイトでもご覧いただけます。